

RESEARCH SEMINAR ／ 日独共同研究

# 「恥」を感じた経験に関する文化的差異

## ― 大学生を対象とした日独比較調査結果から ―

古くはルース・ベネディクトが著書『菊と刀』において、日本文化を「恥の文化」として論じた。では、今日、人々はどのような場面で恥を感じ、その経験はその後の行動や人間関係にどのような影響を及ぼすのだろうか。日独の大学生を対象に実施した本調査では、学校での失敗や他者からのからかい、仲間外れなど、さまざまな恥の経験が語られ、共通性もみられた。本セミナーでは、主にドイツ側の調査結果を取り上げ、恥を感じる場面やその影響について教育社会学、社会学の視点から考える。

## 2026年11月12日（木） 16:00–17:30

会場：研究講義棟1階 100教室 ｜ 対象：本学学生
使用言語：日本語・ドイツ語 ｜ 逐次通訳あり

**事前申込制 参加申し込みはこちらから（必ずtufsアカウントでログインしてください）。→**

https://forms.gle/AfKgXjCrksnywSjd6

## PROGRAM

**16:00–16:05** 開会挨拶

**16:05–16:20** 日本における調査結果の概要

布川あゆみ（東京外国語大学 アカデミック・サポート・センター／准教授）

**16:20–17:00** 恥を感じる状況とその影響ードイツの大学生の視点から

Gisela Schulze教授（オルデンブルク大学）
Barbara Moschner教授（オルデンブルク大学）
Marie-Christine Vierbuchen教授（フレンスブルク大学）

**17:00–17:25** 質疑応答・ディスカッション

**17:25–17:30** 閉会挨拶

## 共同研究メンバー

本調査は以下の研究メンバーによる共同研究の成果です。

### 日本側

Yuri Uesaka（東京大学）｜教育心理学・認知心理学
Mengsi Liu（慶應義塾大学）｜教育心理学
Kenma Tsujino（大阪公立大学）｜教育経営学
Yohei Yasuhara（獨協大学）｜教育**法学**
Ayumi Fukawa（東京外国語大学）｜教育社会学

### ドイツ側

Wiebke Stöhr（オルデンブルク大学）｜特別支援・リハビリテーション教育学
Laura Ohmes（オルデンブルク大学）｜**教育心理学**
Gisela C. Schulze（**オルデンブルク大学**）｜**特別支援・リハビリテーション教育学**
Barbara Moschner（オルデンブルク大学）｜教育心理学・教授学習研究
Marie-Christine Vierbuchen（フレンスブルク大学）｜特別支援教育学

研究倫理審査：日本側は東京大学、ドイツ側はオルデンブルク大学の研究倫理審査を経て実施しています。

お問い合わせ：**東京外国語大学**アカデミック・サポート・センター　布川あゆみ　ayumifukawa@tufs.ac.jp